

あなたも めざせ！世界遺産登録 参加しませんか？

鎌倉の学習と地域との協働 神奈川県立鎌倉高等学校



かまくら学の学習と実践

鎌倉高校では平成18年度から鎌倉の世界遺産登録推進活動への協力というテーマで、鎌倉市世界遺産登録担当職員に講師をお願いして自主講座を開講し、鎌倉の学習や、鎌倉風致保存会の指導のもとで御谷山林の下草刈りなどを実践してきました。こうした活動をもとに平成19年度からは、生徒の学習と地域の活動との有機的な連携を目指して、学校全体で活動する仕組みを立ち上げました。

1年生の総合的な学習の時間に推進協議会広報部会長の内海恒雄先生に講師をお願いして、1年生全員に鎌倉の歴史と世界遺産候補地についてお話をいただき、それをきっかけとして自主研究という形で進めていくという学習面の方で取り組みを進めました。一方では、和賀江嶋の海岸清掃、北条氏常盤亭跡の下草刈りへ参加し、鎌倉の学習と世界遺産登録活動への協力を実践活動で体験するという活動を始めました。こうした学習活動とその実践を本校では「かまくら学」と呼んでいます。

本年度は、一層の充実を目指して推進協議会等の方々との活動計画や活動内容について協議する場を設けて、登録後の保全や活用を視野に入れた動きとなる企画を実践しています。輝く若いエネルギーを放つ生徒たちが、地域の活動と連携し、活動への参加を通じて自らのあり方や生き方を発見し、ともに発展していければと考えています。

「古都鎌倉の世界遺産登録」って なに？

「武家の古都・鎌倉」の歴史的遺産は、武家文化の成立と発展を遂げた場です。

武家文化は、日本文化の大きな要素となりましたが、室町時代以降には京都の公家文化などとも融合しています。

では、現代日本の文化の中で、武家の文化はどのように残されているのでしょうか。

武家に始まり日本人に定着した文化・習慣には、源頼朝が毎年正月1日に鶴岡八幡宮への参拝を決め

金槐和歌苑づくり 古都鎌倉を愛する会

凛とした品格ある鎌倉造りに貢献しようと、政治や社会運動等に関係のない人々が「鎌倉好き」というだけで集まり、「古都鎌倉を愛する会」を立上げて3年目を迎えました。

鎌倉の史跡を、実際に発掘調査した学芸員の方々などの説明を受けながら訪ねる、講演を聴く、海岸を清掃する、山梨の御前水という名水を使った、防腐剤その他の添加物も一切使わない純米酒を鎌倉武士と名づけて廉価で売り、鎌倉らしい兜のバッジを売って、利益を古都保存のための基金として生かしています。会員は東京・岩手などからも参加、「武家の古都・鎌倉」が世界遺産に登録されるよう、世界遺産登録推進協議会の活動にも積極的に参加しています。

協議会事務局や他の団体の方々に協力して、登録推進のためのシンボルマークを世界から公募し、これをTシャツ等にプリントして売り出すなど、協議会の活動資金作りにも汗を流しています。

鎌倉三日会という伝統ある会と連携して金槐和歌苑を鎌倉市内に創る運動もしています。万葉植物園は全国各地にあるのに、実朝の金槐集に出てくる草木を集めて、その和歌とともにお見せ出来る場が肝心の鎌倉にも、どこにもないのは大変残念です。四季折々の草花を愛でる^{ものふ}武士の心粋を世界に伝える^{よすが}縁としたいものです。

会と金槐和歌苑についてのお問い合わせは、中村公司さんまで。電話ファックスは 0467-22-5160、携帯は 090-5200-1811 です。



永福寺跡の史跡めぐりにて。

第1回 武家文化はどのような形で残ったか

たことに始まる初詣や、武家が僧侶の埋葬・供養方法を取り入れたとされる墓塔を立てて周忌供養を行う方法、禅と共にもたらされた喫茶などがあります。

また、鶴岡八幡宮で行われている流鏝馬神事は、京都などで古代から行われていた公家流ではなく、源頼朝が纏めさせた武家流です。この流鏝馬の作法の部分は発展して、中世には武家の正式の礼法とされ、江戸時代には一般の人々へも広がり、今日では日本人の礼儀作法の基本の一つとなっているのです。